

由利公正広場

県では、「県都デザイン戦略」の目指す、地域の歴史を実感できるまち並みを形成するため、幕末・明治初期の偉人の旧跡を巡るまちなか散策スポットとして、由利公正居宅跡に近い足羽川の幸橋南詰上流側に由利公正広場を平成26年3月に整備しました。

由利公正は、福井城下毛矢町に生まれ、幕末の福井藩の財政立て直しや五箇条の御誓文の原案となった「議事之体大意」（ぎじのていたい）を作成するなど、福井だけでなく近代日本の国づくりに大きく貢献しました。

まちなか散策の際に、郷土の偉人を偲ぶ場所としてぜひお立ち寄りください。



広場全景



鯉のぼり掲揚
(H27. 4. 20~5. 7)



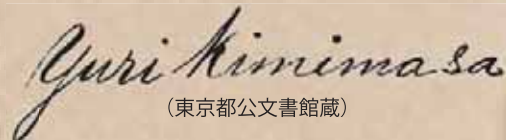
幕末の福井城下の七夕飾り展示
(H27. 7. 1~7. 7 協力：福井市明倫中学校)



(「子爵由利公正伝」より)

由利 公正

(1829 ~ 1909)



(東京都公文書館蔵)



署名(「子爵由利公正伝」より)

由利公正は、幕末・明治期の政治家です。

文政 12 年 (1829)、現在の福井市毛矢 1 丁目に福井藩士三岡義知の長男として生まれました。初め石五郎、後に八郎、公正と改名しました。また、明治 3 年 (1870) 以後は、先祖の旧姓の由利を名乗りました。

横井小楠に師事し、藩の財政建て直しを含む、藩政の改革に貢献しました。

明治新政府の成立後は太政官札(新政府の発行した最初の紙幣)を発行するなど、財政基盤の整備や、「五箇条の御誓文」の原案となった「議事之体大意」を作成しました。

その後、東京府知事となり、銀座通りの整備等を行いました。

また、民撰議院設立建白書にも名を連ね、明治 42 年 (1909) に、81 歳で亡くなりました。



太政官札
(国立印刷局お札と切手の博物館蔵)



銀座煉瓦街
(東京都江戸東京博物館蔵)

Kimimasa Yuri (also known as Kosei Yuri) was a politician during the end of the Edo period and Meiji period. He was born in 1829 as the eldest son of Yoshitomo Mitsuoka in what is now Keya 1-chome in Fukui City. He was given the name Ishigoro, but later changed it to Hachiro, and finally to Kimimasa. From 1870, he adopted his ancestors' old family name, Yuri.

He studied under influential scholar Shonan Yokoi, and he reconstructed the finances of Fukui domain. He also contributed to policy reform in the domain.

After the establishment of the new Meiji government, he introduced "Dajoukansatsu" (first government-issued paper money), overhauled the new government's financial system, and wrote "Gijinoteitai", which became the draft for the "Charter Oath in Five Articles." After that, he became the governor of Tokyo, and turned Ginza into a town of modern brick buildings.

He also signed a petition calling for the establishment of a democratically elected parliament. He died in 1909 at the age of 81.

主な功績

「^{ごかしょう}五箇条の御誓文」の原案—「^{ぎじのていたい}議事之体大意」を作成

慶応 4 年 (1868) 3 月 14 日、明治新政府の基本方針を明らかにした「五箇条の御誓文」が発表されました。そこには、会議を開き民意に基づいて政治を行うこと、外国と広く交流することなどが述べられています。

この原案となったのが、公正が作成した「議事之体大意」です。

殖産興業策を進め、福井藩の財政を改革

生糸・茶など藩内諸産業の振興のため、公正は横井小楠の指導のもとに、殖産興業策を進めました。

長崎に^{えちぜんくらやしき}越前蔵屋敷を設置し、オランダ商館と生糸・醤油などの販売についての折衝を進めました。その後、生産から販売までを総合的に管理する^{さんぶつかいしょ}「産物会所」を福井に開設しました。

由利公正に関わる幕末の偉人たち



横井 小楠

Shonan Yokoi

(1809 ~ 1869)

(国立国会図書館蔵)

熊本藩士。後に福井藩に政治顧問として迎えられた思想家です。

公正たちを指導し、殖産興業策を進め、藩政の改革に関わりました。

福井での滞在中、公正の居宅に近い足羽川の対岸に住んでいたことがあります。



坂本 龍馬

Ryoma Sakamoto

(1835 ~ 1867)

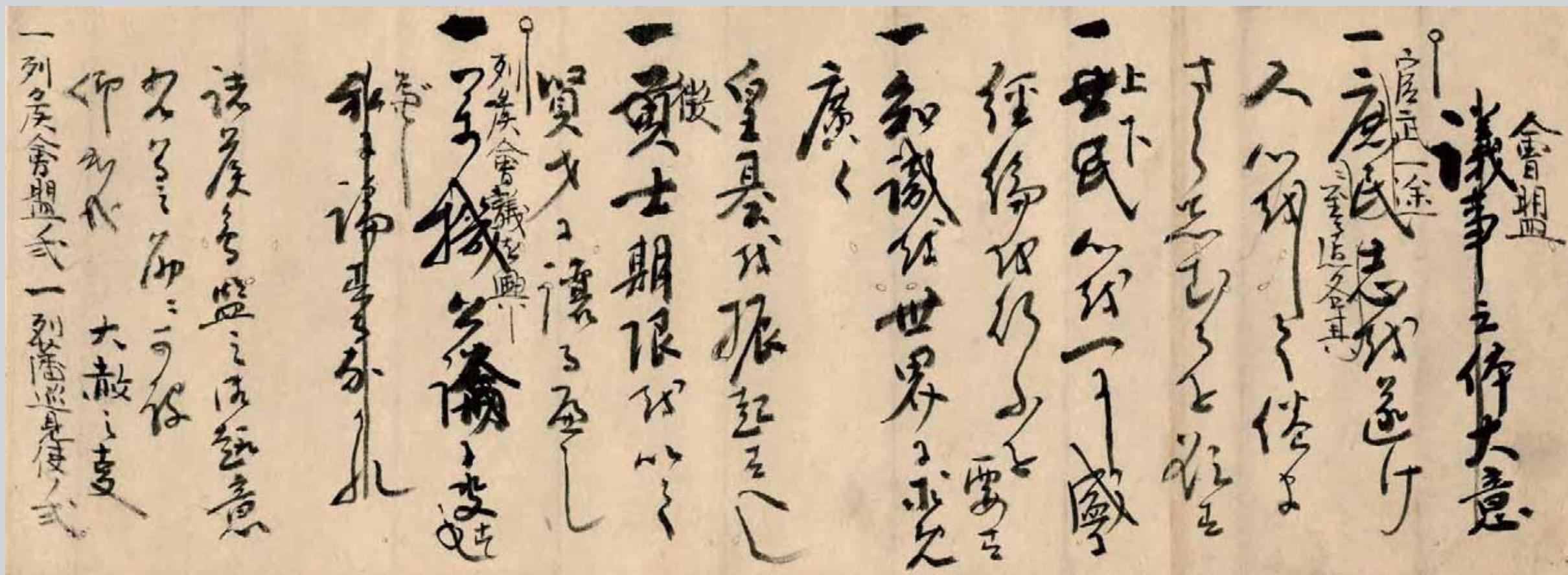
(国立国会図書館蔵)

土佐藩士。公正のもとを二度訪れています。

文久 3 年 (1863) には、横井小楠の案内で、公正の居宅を訪ね、酒を酌み交わしながら、国事について語り明かしました。

大政奉還直後の慶応 3 年 (1867) には、旅館「^{たばこや}菘屋」で新政権の構想について語り合いました。

「議事之体大意」 由利公正（三岡八郎）筆、福岡孝弟加筆（福井県立図書館蔵）



(実物大)

議事之体大意

- 一、庶民志を遂げ
人心をして倦ま
さらしむるを欲す
- 一、士民心を一にし盛に
經綸を行ふを要す
- 一、知識を世界に求め
廣く
皇基を振起すへし
- 一、貢士期限を以て
賢才に譲るへし
- 一、萬機公論に決し
私に論するなかれ
- 諸侯會盟之御趣意
右等之筋ニ可被
仰出哉

(由利公正執筆分のみ抜き出し)

※本パネルの議事之体大意は実物大（16.5cm×45.5cm）です。